

子どもが熱を出してもあわてないで!

新型インフルエンザが本格的に流行しています。

京都小児科医会

子どもが急に熱を出すと色々ご心配になられるでしょう。

しかし、決してあわてずに、以下のことに気をつけて、

子どもの様子をよく観察し、冷静に対応しましょう。

自然に治る力と合併症について

新型(豚型)インフルエンザは、これまで流行したことがないタイプなので、多くの人々がかかります。しかし、これまでの季節型(従来型)インフルエンザと同様に、発熱が3日から5日続いた後に、熱が下がり自然に治ります。症状がでないまま治る(不顕性感染)こともあります。新型インフルエンザだといって不安にかられることはありません。しかし、時には次のような症状(合併症といいます)を起こすことがあり、注意が必要です。時に起きる症状として、肺炎、喘息発作の悪化、脳神経の症状、精神症状、心臓の筋肉の炎症(心筋炎)、のどの奥の炎症(喉頭炎、仮性ク룹)などがあります。

注意しなければいけない症状

- ☑ ぼんやりしていて視線が合わない。呼びかけに応じない。眠ってばかりいる。
- ☑ 意味不明なことを言う。異常に興奮したり、行動したりする。しかし、すぐに正常に戻る場合は発熱のために起きる症状「熱せんもう」であわてることはありませんが、持続する場合は注意が必要です。
- ☑ 手足を突っ張る、がくがくする、目が上にあがる。——(けいれんの可能性があります。)
- ☑ 息が苦しく呼吸が速い(1分間に60回以上)、ゼーゼーいう、肩で呼吸している、胸がへこみ、お腹を突き出す(シーソー呼吸)、肋骨が凹むような呼吸をしている(陥没呼吸)など異常な呼吸状態。
- ☑ 顔色が青白く、土気色である。唇が真っ白で、紫色をしている(チアノーゼ)。
- ☑ 声がかれて、犬のほえるような「ゴホゴホ」というような咳をする。息を吸うときに苦しそうである。
- ☑ 食欲がなく、水分が取れず、半日以上おしっこが出ていない。
- ☑ 嘔吐や下痢が頻回にみられる。
- ☑ その他、熱の出方がいつもの時とは何かが違うように感じた時。

受診の目安

- ☐ 普段から相談できるお医者さん「かかりつけ医」を持つことが大切です。
- ☐ 発熱(38.0度以上)をみた場合、できるだけ診療所や病院の開いている時間内に受診しましょう。時間外の受診はスタッフ体制も十分でないことから、時間内での受診をおすすめします。
- ☐ 休日や時間外に発熱した場合、急病診療所、応急診療所などの病院や診療所を受診しましょう。
- ☐ 深夜に発熱した場合、上記の注意しなければいけない症状がなければ、水分を十分に与え、頭部を冷やすなどして、安静にしておくことが大切です。深夜に受診することの方が、かえって子どもにとって体の負担になります。
- ☐ 注意しなければいけない症状があれば、連絡をした上で医療機関に受診するようにしましょう。

インフルエンザの診断と治療について

インフルエンザと診断されると、タミフル(飲み薬)とリレンザ(吸う薬)が子どもに応じて処方されます。また、インフルエンザに安全な解熱剤が処方される場合もあります。どの薬にも一長一短がありますので、治療法や薬の用法についてはお医者さんや薬剤師さんの指示に従ってください。